

第1回 仙台Iソントクラブ 東北大学大学院 女子学生海外渡航支援事業 報告書

平成24年 10月 10日 記入

所属部局名：薬学研究科
学 年：修士課程 2年
氏 名：牧野 支保

1. 渡航先

アメリカ合衆国・ニューヨーク州

2. 参加国際学会等の名称

Translational Control 2012

3. 開催期間

平成24年 9月 4日 ~ 平成24年 9月 8日

4. 旅行期間

平成24年 9月 4日 ~ 平成24年 9月 10日

5. 発表演題

Tethered TNRC6 Stimulates mRNA Decay Independent of Translation and Poly(A) Tail in *S. cerevisiae*

6. 参加した国際学会等の状況並びに感想

半日以上の長い飛行時間を経て、アメリカ合衆国ニューヨーク州に到着。貴支援事業により、コールドスプリングハーバー研究所で行われた Translational Control 2012 に参加させて頂きました。コールドスプリングハーバー研究所はニューヨーク郊外に位置し、分子生物学の父ワトソンをはじめ、数多くの優れた研究者が拠点とする研究所です。この研究所では多くの学会が開催され、世界の最前線で活躍する研究者が集います。

今回は初めての海外でのポスター発表であったため、研究成果を世界に発信する機会として非常に楽しみにしていた反面、英語での説明が正確に伝わるだろうか、質問に答えられるだろうか、という不安もありました。

いざポスター発表の時間が始まると、会場ではディスカッションの声が飛び交い熱気に包まれました。約15人の方が私のポスターに来て下さり、拙い英語ではありましたが、無事発表することが出来ました。同じ専門分野ではあるも

この論文上でしか見たことのなかった研究者の方も実際にポスターに来て下さり、様々な意見やアドバイスを得ることが出来ました。しかし、同時に英語のコミュニケーション能力不足を痛感し、より話すことが出来たらさらに深いディスカッションが出来たのにと、悔しさが残りました。一方で、拙い英語でも私達の研究内容に興味を持って熱心に聞き、コメントをして頂いたことに感激しました。

ポスター会場では、世界的に認められている先生や国籍、性別など関係なくポスターを見て議論し、見にくい図があれば膝を付いて同じ目線で説明を聞く姿が多く見られました。サイエンスにおいては全てが対等でありそれが魅力であると再認識しました。学生という立場でまだまだ未熟者ですが、サイエンスというフィールドの一員として研究できることの喜びを感じました。

今後研究を発展させていく上で重要なアドバイスを得、非常に有意義な時間を過ごさせて頂き、大きな励みとなりました。今後はさらにディスカッション・コミュニケーション能力を向上させ、次回、海外の学会に参加する際には、堂々と発表を行えるよう邁進していきたいと考えています。

7. 本事業に対する要望等

貴事業により、海外での国際学会に参加させて頂き、日本国内の学会では決して経験することのない貴重な体験をさせて頂きました。今後も、将来国際的に活躍することを目標とする女学生に対し貴事業を継続して頂き、研究者としての能力向上に繋がる経験をする女学生が増えることを心から願っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

※ この報告書は、本事業の出資団体である「仙台 I ソンタクラブ」への事業成果報告として提出します。

※ この報告書は、本学男女共同参画委員会ホームページに掲載します。